

■小麦の殺菌剤(種子消毒・雪腐病)

区分		毒性	予防／治療	系統名	薬 剤 名	希釈倍率	水100ℓあたり 使用薬量
種子消毒	各種病害	－	予防	ジチオカーバメート・MBC	ベンレートTコート	乾燥種子重量の0.5%	
根雪前 処理	各種雪腐病 根雪前処理	－	予	Qil	ランマンフロアブル	1,000倍	100ml
		－	予	ジニトロアニリン	フロンサイドSC	1,000～2,000倍	50～100ml
		－	予	ジニトロアニリン	フロンサイドSKY	8倍(水量0.8ℓ/10a) もしくは16倍(1.6ℓ/10a)	
		－	予防	MBC	トップジンM水和剤	1,000倍	100g

使用時期 (収穫前日数)	回数 以内	適用病害名								防除上の注意事項
		条 斑 病	裸 黒 穂 病	大 粒 菌 核 病	黒 色 小 粒 菌 核 病	雪 腐 病	褐 色 小 粒	褐 色 雪 腐 病	紅 色 雪 腐 病	
は種前	1	●	●							・なまぐさ黒穂病、斑葉病にも登録有り
根雪前	3						●			・無人ヘリコプターによる散布: 希釈8倍、散布液量800mℓ/10a ※雪腐病は、適期は種、透排水性改良と融雪促進、薬剤防除で効果的に防除できる。
根雪前	2			1,000 ●	●	●		1,000 ●		・ランマンフロアブルと混用可 ・250倍 散布水量25L/10aで小粒菌核病に登録あり。 ※雪腐病は、適期は種、透排水性改良と融雪促進、薬剤防除で効果的に防除できる。
根雪前	2			●	●	●		●		・本剤は皮膚感作性を有するため、皮膚かぶれ等を生ずることがあるので注意する。
根雪前	3※			●						※出穂期以降の使用回数は2回

■小麦の殺菌剤・殺虫剤

区分		毒性	予防／治療	系統名	薬 剤 名	希釈倍率	水100ℓあたり 使用薬量
散布	眼紋病 幼穂形成期頃	－	予防	SDHI	カンタスドライフロアブル	1,500倍	66g
		－	予防	DMI	シルバキュアフロアブル	2,000倍	50ml
		－	予防	DMI	リペロ水和剤	2,000倍	50g
		－	予	フタルイミド	オーソサイド水和剤80	600～1,000倍	100～167g
		－	予防	DMI	チルト乳剤25	1,000～2,000倍 2,000～3,000倍	50～100ml 33～50ml
		－	予防	DMI・フタルイミド	バラライカ水和剤	500倍	200g
		劇	予防	MBC・ビスグアニジン	ペフトップジンフロアブル	800～1,000倍	100～125ml
		－	予防	MBC ・N-フェニルカーバメート	プライア水和剤	1,000～1,500倍	66～100g
		－	予防	ベンズイミダゾール	トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	66～100g
		劇	予防	SDHI	ミリオネアフロアブル	4,000～8,000倍	12～25ml
		－	予防	DMI	プロラインフロアブル	2,000倍	50ml
		－	予防	SDHI	ミラビスフロアブル	1,500～2,000倍	50～66ml
	アブラムシ類 6月中旬 ～7月中旬	劇	－	ピレスロイド	ゲットアウトWDG	3,000～4,000倍	25～33g
			－	スルホキシミン	ビレスコ顆粒水和剤	5,000～10,000倍	10～20g
		劇	－	ネオニコチノイド	アドマイヤー顆粒水和剤	15,000倍	6.6g
		－	－	フロニカミド	ウーララDF	4,000倍	25g
		劇	－	有機リン	エルサン乳剤	1,000倍	100ml
		－	－	有機リン	スミチオン乳剤	1,000倍	100ml
	節間伸長抑制 による倒伏軽減 止葉期～	－	－	その他	カルタイムフロアブル	春播：150mℓ/10a 秋播：150～200ml/10a	
		－	－	その他	エスレル10	春播：300～1,000倍 春播：300～500倍 秋播：300～500倍	100～333ml 200～333ml 200～333ml
						春播：150mℓ/10a 秋播：150～200ml/10a(幼穂形成期) 200～300ml/10a(出穂前)	
		劇	－	その他	サイコセルPRO		

使用時期 (収穫前日数)	回数 以内	適用病害虫名									防除上の注意事項
		眼紋病	うどんこ病	赤さび病	赤かび病（DON）	赤かび病（ニバーレ）	アブラムシ類	ムギキモグリバエ	アワヨトウ	成長調整	
45日前	2	●	●								・眼紋病は薬剤に頼らず、耕種的防除を励行する
7日前	2		●	●	●						・黒点病、黒変病に2,000倍で登録あり
7日前	3		●	●	●						・黒点病、黒変病に2,000～4,000倍で登録あり ・ふ枯病：2000倍
14日前	4					●					・ニバーレ対策 ・黒変病・黒点病に1,000倍で登録あり ・葉枯症、ふ枯病に登録有り
3日前	3	●		●	※						・黄斑病、葉枯症に1,000倍で登録あり ・黒変病に1,000～2,000倍で登録あり ※赤かび病に登録有り(指導参考なし)
14日前	2		●	●	●	●					・黒変病、葉枯症に登録あり
14日前	3※		●	●	●	●					・葉枯症に登録あり ※出穂期以降の使用回数は1回
21日前	2			●	●	●					・葉枯症に1,000～1,500倍で登録あり
14日前	3※	1,000●	～2,000●		●	△					※出穂期以降の使用回数は2回 ・ニバーレに対する耐性菌が確認されている
7日前	2		4000●	●							
21日前	2		●	●	●	●					黒点病、黒変病に登録あり
7日前	2			●	●	●					・葉枯症に登録あり
21日前	3						●				・アブラムシは、干ばつの年に多発傾向にあるので注意する。1穂当り7～11頭以上寄生している場合は要防除。ハモグリバエの被害が大きいと千粒重が劣るので早期に防除する。
7日前	2						●				
14日前	2						●				
7日前	2						●				
7日前	4						●	●	●		
7日前	1						●	●	●		
止葉期～ 出穂始期	1									●	
出穂始期 止葉期～ 出穂始期	1									●	
6葉期前後 幼穂形成期 出穂20～10日前	1									●	※幼穂形成期は1回以内、幼穂形成後は1回以内